令和８年飯田市議会第４回定例会　委員会代表質問通告表

令和８年12月２日

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
1	福　澤　克　憲 （総務委員会） 【　40　分　】	1　「環境文化都市」の実現に向けて (1) これまでの歩みと現状認識について ① 「環境文化都市」30年の節目を経て、現状をどう捉えているか ② 「環境文化都市」認知度の考え方は (2) 市民の皆さんの身近な生活の課題について ① ごみ処理（分別・集積所等）、自治活動組織の課題は ② ３Ｒの取組に対しての課題は ③ 高齢者の課題は ④ 生活環境の維持、生物多様性の課題は (3) 課題への取組の考え方について ① 自治活動組織の理解、地域コミュニティの醸成の取組は ② ３Ｒの取組、リサイクルステーション常設の考えは ③ リサイクルの見える化の取組は (4) 今後の方向性は
2	小　林　真　一 (産業建設委員会) 【　40　分　】	1　市民の生活の基礎を支えている第１次産業を持続可能なものとしていくために (1) 第１次産業のうち農業における市の状況について ① 農業における遊休農地の状況とその課題認識は ア　市の特徴である「山・里・街の多様な暮らし」に影響があると考えるが認識は イ　市の課題認識は ② 農業における課題について庁内の組織横断的な取組は ア　農業を起点とした共創人口、関係人口、交流人口の構築を移住定住へつなげる考えは イ　産業経済分野に留まらず、市民生活における様々な分野への影響はどうか

No.	氏　　名	項　目　・　要　旨
	小　林　　真　一 (産業建設委員会) 【　40　分　】	(2) 農業を持続可能なものとする視点から、遊休農地をこれ以上増やさないために ① 農業は高齢化や担い手不足により限界を迎えつつあると認識する。置かれている状況から対応をどのように考えるか ア　集落営農や法人などにより農業を持続させる可能性がある。そのために地域内の合意形成へ向けて伴走支援する考えは イ　担い手として外部人材の活用についての検討と今後の方向性をどのように考えるか ウ　農業のつながりによる関係人口、交流人口、共創人口から移住定住につながる際の農地付き空き家など庁内の組織横断的な連携強化の考えは ② 高額な農業機械の購入による離農のリスクの回避や農業参入へのハードルを下げる視点から支援の追加や拡充などの考えは ア　費用負担を抑える方策として、例えば住民間で安価に取引するためのコーディネーターや窓口のような支援の考えは イ　「意欲ある農業者支援事業補助金」を拡充する考えはあるか ウ　現在活用できる補助制度や新しい支援策を担当課としてもタイムリーに把握し周知する体制の強化が必要と考えるがどうか ③ 地域農業の理想的な在り方として ア　高付加価値化・ブランド化が必要と考えるが今後の取組は イ　飯田市における伝統野菜など特徴的な農産物の文化・歴史を継続させていくための支援の考えは ④ 農業振興のために重要となる地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）の取組の現状は ア　地域計画についてのゾーニングに留まらず情報の共有など、広く市民に周知し関心を持ってもらう考えは